

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

| 教科・区分 | 学力調査の分析(傾向や特徴) |
|-------|---|
| 国語 | 平均正答率は、全国平均を下回っている。学習指導要領の内容では、知識及び技能の「(3)我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、全国平均を上回っているが、「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は全国平均を下回っている。また、思考力・判断力・表現力等の「C 読むこと」の正答率が全国平均を下回っている。 |
| 算数 | 平均正答率は、全国平均をやや下回っている。学習指導要領の領域では、「A 数と計算」の正答率は全国平均を上回っているが、「C 変化と関係」の正答率は全国平均を下回っている。また、問題形式では、記述式の問題の正答率が低く、無回答率が高い傾向がある。 |
| 理科 | 平均正答率は、全国平均を僅かに下回っている。学習指導要領の領域では、A区分「粒子」を柱とする領域の平均正答率が全国平均を上回っていた。B区分「生命」を柱とする領域の平均正答率は、全国平均を下回っていた。評価の観点では、「知識・技能」は平均正答率が全国平均を上回っているが、「思考・判断・表現」は全国平均を下回っている。 |

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">朝食、就寝、起床などの生活習慣に関する質問では、肯定的な回答の割合が全国平均より高く、基本的な生活習慣が定着していることがわかる。「自分には、よいところがあると思いますか」の質問では、肯定的な回答の割合が全国平均より高く、自尊心が高いことがわかる。「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」という質問では、肯定的な回答の割合が100%で、人間関係が安定していることが学校に楽しく通うことにつながっていると考える。「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」という質問では、肯定的な回答が100%で、ICT機器を普段の授業でよく活用していることがわかる。「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問では、「守っていない」「持っているが約束はない」と回答した割合が全国平均より高い。使用時間が全国平均と比べて長いわけではないが、これから先のことを考えると家庭でのある程度のルールが必要だと考える。「学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問では、「1時間より少ない」「全くしない」と回答した割合が全国平均より高い。 |

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 朝自習の「市丸タイム」や放課後の「ひまわり学習塾」を活用して、基礎学力の向上と既習事項の定着を図る。
- 学習の中で、自分の考えを書く時間や、自分の言葉でまとめたり、振り返りを書いたりする時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 朝の運動タイムを継続することで、家庭での生活習慣の定着につなげている。
- 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家庭でのルールを設定するよう啓発する。